

養殖力キのへい死の状況（１）（各県からの聞取り）

○力キ養殖を行っている各県に状況を確認。瀬戸内海の各県において、多いところで7～9割のへい死が発生している。

○推測される要因は、高水温は共通しているほか、高塩分、エサ不足、貧酸素等が挙げられている。

※平時のへい死割合は一般に3～5割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和5年の生産量（生産量割合）

1.広島県 (西部海域)

- ① 3～9割
- ② 長期の高水温・貧酸素
- ③ 89,192トン (59.8%) ※県全体

2.広島県 (中部海域)

- ① 7～9割
- ② 長期の高水温・高塩分
- ③ 89,192トン (59.8%) ※県全体

3.広島県 (東部海域)

- ① 5～9割
- ② 長期の高水温・高塩分
- ③ 89,192トン (59.8%) ※県全体

4.岡山県

- ① 地区により異なる
1年力キで1～7割
2年力キで7～8割
- ② 高水温、高塩分、降水量の減少
- ③ 11,557トン (7.8%)

5.兵庫県

- ① 地区により異なるが
おおよそ7～9割
- ② 高水温、エサ不足
- ③ 8,407トン (5.6%)

6.山口県

- ① 地区により異なるが
おおよそ3～6割
- ② 高水温、エサ不足、降水量の減少
- ③ 25トン (0.1%未満)

7.愛媛県（今治市）

- ① ほぼ全量
- ② 高水温、貧酸素
- ③ 565トン (0.4%) ※県全体

8.愛媛県（愛南町）

- ① 10月、11月導入の中間貝が
導入時点で3～9割へい死
- ② 中間貝の生産不良
- ③ 565トン (0.4%) ※県全体

9.香川県

- ① 地区により異なるが
おおよそ5～9割
- ② 高水温など
- ③ 794トン (0.5%)

11.大阪府

- ① 7～9割
- ② ヘテロカプサの増加
- ③ 11トン (0.1%未満)

10.徳島県（瀬戸内海側）

- ① 地区により異なるが
3～9割程度
- ② 高水温・エサ不足など
- ③ 96トン (0.1%) ※県全体

※2025年12月19日現在

養殖力キのへい死の状況（２）（各県からの聞取り）

- 瀬戸内海以外の地区について、宮城県の一部の地区でも例年以上のへい死発生が見られた。
- 福岡県、三重県、岩手県では、特段のへい死は確認されなかった。

※平時のへい死割合は一般に 3 ～ 5 割

凡例：①へい死の程度、②推測される要因、③令和５年の生産量（生産量割合）

12.福岡県

- ①例年並み
- ②—
- ③1,482トン(1.0%)

13.三重県

- ①例年並み
- ②—
- ③1,903トン (1.3%)

14.岩手県

- ①1～3割
- ②高水温等
- ③5,834トン(3.9%)

15.宮城県（北部）

- ①地区により差があるが
おおよそ 2 ～ 7 割
- ②高水温等
- ③20,363トン (13.7%)
- ※県全体

16.宮城県（中～南部）

- ①地区により差があるが
おおよそ 2 ～ 7 割
- ②高水温等
- ③20,363トン (13.7%)
- ※県全体

各県からの聞取り情報まとめ（１）

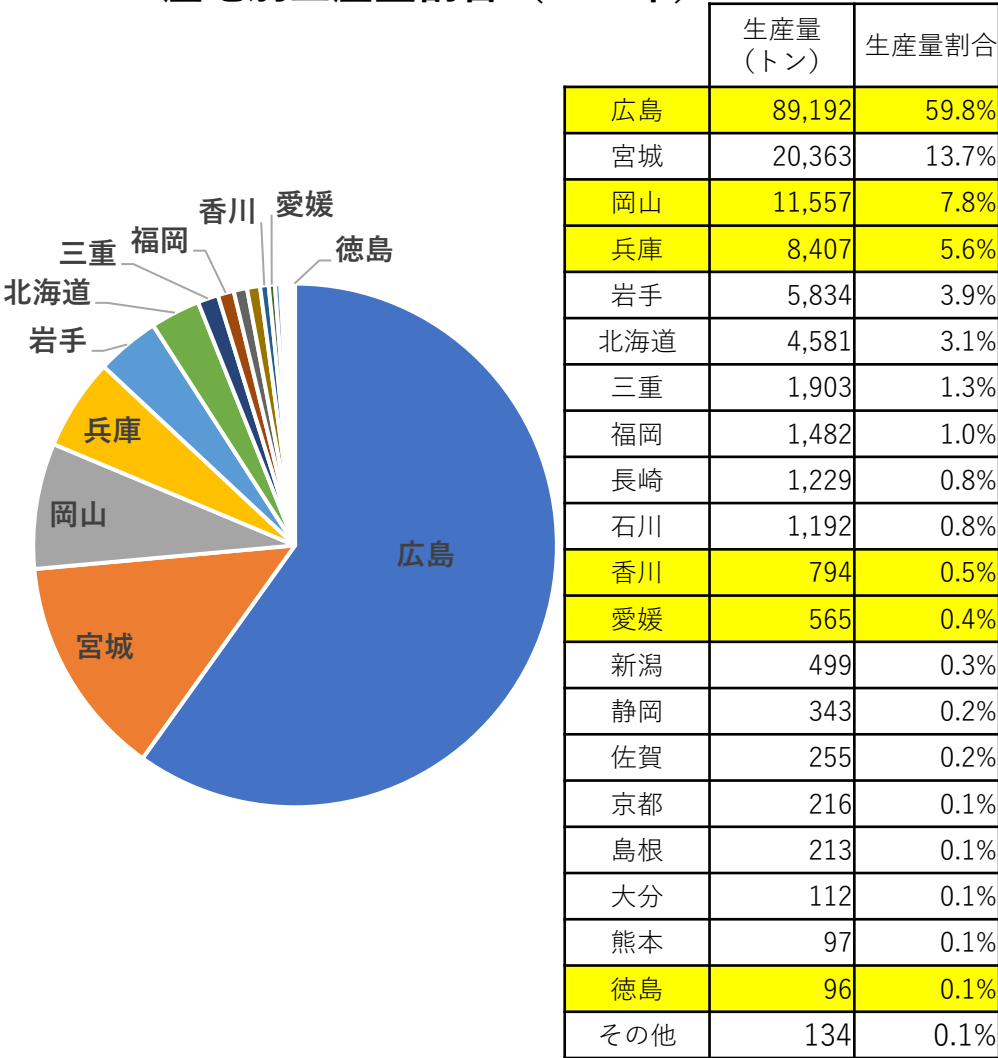
No.	地区	へい死の 程度	身入り	海洋状況	推測される要因
1	広島県 (西部海域)	3～9割	例年並みか、小さい	高水温、貧酸素水塊・青潮の発生	長期の高水温 貧酸素
2	広島県 (中部海域)	7～9割	身入りが悪い、 やわらかい	高水温、高塩分	長期の高水温・高塩分による 生理障害
3	広島県 (東部海域)	5～9割	身入りが悪い	高水温、高塩分	長期の高水温・高塩分による 生理障害
4	岡山県	地区により異なる。 1年カキで1～7割 2年カキで7～8割	ほとんどの地域で 例年より小さい	6月下旬から9月中旬まで 前年より2℃高く推移。 9月中旬以降は昨年並み。	高水温 高塩分 降水量の減少
5	兵庫県	地区により異なるが、 おおよそ7～9割	例年よりかなり小さい	夏季の高水温期間が長かった。 夏季のクロロフィル量が 少なかった。	高水温、エサ不足
6	山口県	地区により異なるが おおよそ3～6割	例年並みか、小さい	夏場の高水温の継続	高水温、エサ不足、 降水量の減少
7	愛媛県 (今治市)	ほぼ全量	例年よりかなり小さい	高水温、貧酸素	高水温、貧酸素
8	愛媛県 (愛南町)	10月、11月導入の中間貝が 導入時点で3～9割へい死	生残した貝の身入りは 概ね良い	水温が例年より やや高かった。	中間貝の品質
9	香川県 (漁業者等からの聞取り)	地区により異なるが おおよそ5～9割	例年より小さい	高水温、エサ不足	高水温、エサ不足、貧酸素
10	徳島県 (瀬戸内海側)	地区により異なるが 3～9割程度	例年より小さい	鳴門市では8月下旬から 9月中旬まで平均より水温が高く、 底層の酸素濃度も低かった。	高水温、貧酸素、エサ不足
11	大阪府	7～9割	例年並みか、小さい	高水温、 ヘテロカプサの増加	高水温、 ヘテロカプサの増加

各県からの聞取り情報まとめ（2）

No.	地区	へい死の 程度	身入り	海洋状況	推測される要因
12	福岡県	例年並み （3～5割）	例年並みか、やや小さい	夏季の水温が例年よりも 高く推移。	—
13	三重県	例年並み （3～5割）	例年並み	8月中旬から9月下旬まで、前年 より2～3℃低めに推移。 10月以降も前年より低め。	—
14	岩手県	例年並み （1～3割）	例年並みか、やや小さい	夏季の水温が例年よりも 高く推移した。	高水温
15	宮城県 （北部）	地区により差があるが、おおよそ 2～7割	身入りが悪い地域が多い	夏季の水温が例年よりも 高く推移した。	高水温等
16	宮城県 （中部、 南部）	地区により差があるが、おおよそ 2～7割	地区により異なるが 概ね例年並み		

【参考】 養殖力キの主な生産地

産地別生産量割合（2023年）



産地別生産額割合（2023年）

